

2015 年
入試用

学校説明会レポート



香蘭女学校中等科

日時 2014 年 6 月 20 日（金）10 時 30 分～12 時 00 分
所在地 品川区
会場 講堂
対象 塾
出席者数 約 50 名
配付資料 2015 年募集要項、2015 年学校案内、であい、過去問題など

説明会の概要

あいさつ

高田校長 10：30～10：50

- 毎朝、中等科・高等科の生徒 1,024 名がこの礼拝堂で祈りを奉げています。
- 英国の聖公会により創設されたキリスト教の学校です。麻布から白金、旗の台と校地を移し、126 年間、「人のために自分には何ができるのか」と問う建学の精神が受け継がれてきました。
- 「命を宿す」という肉体的な仕組みから、より「命」に敏感な女性が、多感な十代の時期にどんな教育を受けるかということは大変重要なことです。共学化が進む世の中ですが、男女が別に学ぶ意義はあると考えています。

学校生活

広報 田村先生 10：50～11：25

- お祈りを学校生活の中心に据えています。祈りは奉仕の精神に結びついています。
- ビッグシスターというシステムは上級生が下級生の世話をする仕組みです。高等科の 3 年生が中等科 1 年生の教室へ行って点呼をしたり清掃を指導したりします。学習ボランティアとして高等科の生徒が勉強面でのサポートをする制度もあります。

進路指導

進路指導 松浦先生 11：25～11：45

- 進路指導の基本は第一志望へ進めるような力をつけさせることです。立教大学は多くの学部を擁する総合大学で、本校からは 80 名という大きな推薦枠がありますが、自分はずでに目標がはっきり決まっていて、立教にはその学部がないので選ばない、という生徒

もいます。

- 立教大への推薦は高 3 の 1 学期末に決定します。他の大学の指定校推薦は 2 学期末に決定し、この人数は最近では 20～30 名となっています。これ以外の、一般入試を受ける生徒の進路が決まるのは 3 学期ということになります。

入試

教頭 青野先生 11：45～12：00

- 【変更点】 中学入試→（なし）
- 入試日は 2015 年 2 月 1 日の 1 回のみで、2 科・4 科から選択して受験します。試験当日に、生徒のみのグループ面接を行います。願書の入手に関してはネットからでも申し込めるようにする予定です。
- 要項の募集人数は 160 名で、実際の人数編成としては 43 名×4 クラス＝172 名でスタートしたいと考えています。人数に関してのこの方針は 2014 年春と変わりません。2014 年は 20 名の補欠を出しました。2015 年はサンデーショックが予想され、合格者の人数が多くなることが考えられます。
- 合格の決め方は次の通りです。まず国・算の 2 教科で合格予定人数の 8 割を決め、残りの 2 割を国・算・社・理の 4 教科合計で決定します。
- 2 教科入試の応募者が 40 名程度になった年があり、当時は今後減っていくのではないかと考えましたが、予想に反してこのところ応募者が増えています。まだまだ 2 教科の需要はあると思われるので、継続します。国・算を重視するという方針からも、2 教科入試の継続は意味があると考えています。
- 合格発表は 2015 年 2 月 2 日で、インターネット発表後に校内掲示となります。
- 合格手続きは 2015 年 2 月 3 日のみで、この日の手続き終了時点で人数が足りない場合は、補欠として発表した受験生の上位から順に連絡をしていきます。
- 「報告書または通知表の写し」の選択については次の通りです。どちらも合否への影響は「参考程度」ですが、なるべく小学校の担任の先生に書いていただく報告書を提出していただきたいと思います。報告書を書いてもらえない場合は通知表のコピーということになりますが、通知表は小学校によって数字であったり A B C であったりして表記が異なり、どうしても比較がしにくくなります。
- 本校では、帰国生対象の別の試験を設定していないので、普通の入試を受けていただくことになります。但し、採点で配慮しています。詳細は公表できませんが、かなり配慮していると考えてください。本校には習熟度別のクラスはなく、英語が堪能な生徒でも A B C から始めることになりますのでその点はご理解ください。現在の中 1 では、帰国生は 1 名です。上の学年では、それぞれ 3～4 名の帰国生がいます。
- 入学後に父親の転勤で日本を離れる可能性があるのだが、という相談が最近増えてきています。再び日本に帰ってきた場合に、希望すれば香蘭に戻ることが可能です。
- 面接は受験番号順に行います。午後入試を実施する学校が増えているので、面接は午後

2時30分までに終わらせる予定です。7～8名のグループで実施し、時間は10分間です。全員に答えさせますが、時間が短いことでもあり、中学で楽しみなことは何か、という程度のやさしい質問をします。やわらかい雰囲気で行われるので、これまで、緊張で答に詰まるような受験生はいませんでした。学校と受験生のコミュニケーションの場という意味で面接を大切にしており、今後も廃止の予定はありません。

- 受験対策としては、過去問題をしっかりやっておくことです。出題方針に変更はありません。国語では、作者の意図を問う問題が出ます。あなた（受験生本人）がどう考えるか、と問うのは、入試の段階では難易度が高いので、入学後に指導する内容だと考えています。物語文は、身近な題材を扱った作品が多く出題されています。過去問を見れば、出題される作家がそれほど多くなく、同じ作家が何度か取り上げられていることがわかります。算数で見たいのは「計算力」「ていねいさ」です。基礎練習を積み、ミスなく解けるようにしておくことです。例えば、場合の数などをきちんとコツコツ書き出せるような力をつけておく必要があります。理科・社会は、基礎的な知識を問いますが、領域横断的な問題、分野をまたいだ問題も出題されます。また、生活常識や時事問題を結びつけて解く問題が出された年があります。例えば、2014年は公民で150字の自由筆記が出されています。自由筆記という解答方法に注目してほしいという意味ではなく、出題にいろいろな工夫をしているという意味で紹介しました。

説明会の雰囲気・印象

- 2015年春の入試は変更がないとのことで、穏やかな雰囲気の説明会でした。立教大学への推薦に関してはすでに十分知られていると判断しているためか、割かれる時間はこれまでより少ない印象でした。

学校周辺の環境

- 交通量の多い中原街道に面しており、昔ながらの賑やかな商店街もすぐ近くにありま
す。校門から校舎までの緑豊かなアプローチが、街の喧騒を遮断しています。

交通

- 東急池上線 旗の台駅から徒歩5分
東急大井町線 旗の台駅から徒歩5分